“Learning Clinical Reasoning” Workshop に参加して

2007 年 8 月 16-24 日

University of Hawaii

John A.Burns

School of Medicine

Honolulu, Hawaii USA

＜目次＞

Clinical Reasoning Workshop について …P.3
① PBL …P.4
② CRE …P.5
③ Simpats …P.6
他大学との交流 …P.7

＜Clinical Reasoning Workshop について＞

３年　范綾

私たちは夏休みに、ハワイ大学の主催する Clinical Reasoning Workshop に参加しました。プログラムの中身は、①お馴染みの PBL、②CRE(Clinical Reasoning Exercise)、③Simulated Patients(略 Simpats：模擬患者の問診、身体診察の練習)を、毎日反復するという、非常に中身の濃いものでした。このプログラムの一番の特徴は、これら PBL,CRE,Simpats のステップを踏むことで、問診から診察や診断までの思考を一連の流れとして学ぶことができる点だと思います。普段の私たちの学習では、PBL とその関連講義だけ、といった感じで、ある病気について、その病態や治療法など、教科書から学ぶ段階で終わってしまいます。しかし実際の現場では、診察して、身体所見をとって、診断、治療をして…と、一連の流れがあるので、PBL と関連講義だけでは、そのステップの一部をとって勉強している、ということになってしまいます。そこで、simpats などを勉強に取り入れると、PBL の学習も、臨床の場を想像しながら進めることができる、というわけです。

以下、①②③のそれぞれについてさらに詳しく書いていきたいと思います。

＜①PBL＞

３年　岡本真希

PBL(Problem Based Learning)とは紙面上で架空の患者さんの経過を追いながら、みんなでその患者さんにはどういったことが起こっているのかディスカッションしていくというものです。５～６人の小グループで、チューターのアドバイスのもと、どんな疾患が考えられるのか、もっと診断に近づけていくにはどういった情報が必要なのか、みんなで意見を出し合います。佐賀大学でも同様の学習を行っていますが、ハワイでは、すべて英語で行われ専門用語が飛び交い大変でした。しかし、学んだことも多く、症例の内容をみんなで考えるだけではなく、もしこういう症状があったらどうなるんだろうなどと一歩踏み込んだ話し合いをすることができ、いつもとはひと味違ったセッションを経験することが出来ました。ハワイのＰＢＬはSpeak aloudが基本で、自分がどうしてそう考えるのか、その考え方の過程をそれぞれが積極的に発表したので、ディスカッションもより内容の濃いものにすることもできました。帰国後もこのSpeak aloudを意識して自分たちのＰＢＬを行い、Ｗｈｙ？どうしてそう考えるの？ということを中心にみんなで議論を深めるきっかけにもなり、ハワイでのＰＢＬは得るものが多かったと日々実感しています。

＜②CRE＞

４年　松本紘毅

PBL ではどんな疾患が考えられるのか、診断のために更に必要な情報は何か、学生同士ディスカッションしますが、CRE は設定が「救急」である症例のみを使いテンポ良く話を進めていくことが要求されます。PBL では急性疾患も、慢性疾患もどちらも扱いますが、CRE では急性疾患(もしくは慢性疾患の急性増悪)しか扱いません。僕は狭心症や胆のう炎などが疑わしい CASE を体験しました。仮に自分が研修医だとして、意識障害や激痛で救急部に運ばれてくる患者さんをみて、今何をすべきなのかを考えることがポイントになってきます。突発性の胸痛だったら何を思い浮かべますか？心筋梗塞、肺動脈塞栓症、大動脈乖離…緊急性の高い疾患がいくつかあがると思います。PBL ではできるだけ多くの疾患を考えつくことが目標ですが、その中でも絶対に見落としてはいけないもの・優先順位を CRE を通して学習します。すべて英語で行われ大変でしたが、内容はむしろ一歩踏み込んだ深いのものとなり、いつもとひと味違った経験をすることができました。

＜③Simpats＞

４年　岩田悠里

Simpat は模擬患者を使った問診・身体診察の練習でしたが、友達同士でやる問診の練習と違い、診察台のある部屋に診察用のガウンを着用した模擬患者がいるという、とてもリアルな設定で、緊張しました。その上ビデオに撮られ、後から互いのビデオを見ると、「自分はなんてダメなんだろう…」という感情や恥ずかしさにとらわれました。しかし、ビデオを通し反省すること、また他の人じゃないと気付かない自分の長点を知ることができ、とても勉強になりました。初めはどう接して良いのかわからず、緊張から全員いろいろと失敗しましたが、段々と問診がスムーズに、より confident になっていくのを見るのはおもしろかったです。

＜他大学との交流＞

４年　佐川尚子

このプログラムのもう１つの魅力は高知大学、慶應義塾大学、台湾からの参加者やハワイ大学医学部の学生との交流でした。宿泊したところもハワイ大学の学生寮で、二人一部屋のシンプルな部屋ですが、留学生向けの寮となっており、多国籍の学生と触れ合える international な空間でした。楽しい思い出が多くあるけれども、何より忘れられないのは、勉強やお互いの生活のことなどいろいろと話し、意見を交換したことでした。ハワイの学生に様々な地へ連れて行ってもらい、参加者みんなで遊んだのもよい思い出ですが、何より忘れられないのは、勉強のこと、お互いの生活のこと、あらゆることを話し、意見を交換したことです。プログラムでも発見が多く刺激的でしたが、彼らがいたからこそ、それをより実感することができました。